



Forever

永遠

悠久の多摩川の流れに寄り沿って静かにたたずんできた街。

遙か遠い都市の源流を流れ続けてきた歳月が

私たちに何かを語っています。

それを感じ、明日を創るのは私たち。

福生の歴史は古く、ここに人が暮らすようになったのは、約1万年前と推定されています。市内の遺跡からは、縄文時代早期の土器が出土しており、中期(約4,000~5,000年前)には、拝島段丘に大規模な集落があったようです。

福生が歴史にその名を見せたのは、11世紀に入ってからのこと。武蔵七党・西党の小川氏系図の中に宗末という武士が福生村を賜ったと記されています。中世、鎌倉時代の歴史を

物語るものとしては、嘉元2年(1304)と記された板碑が永昌院に残っており、市内の文化財としては最古のものです。

室町時代に入ると、八王子城主北条氏照が支配するようになります。しかし、五代にわたって関東一円に勢力をふるっていた北条氏も豊臣秀吉に滅ぼされます。

江戸時代は、福生村は天領、熊川村は天領と旗本領に分かれて統治され、幕末まで続きます。福生村は畑地が中心でし

たが、水田も開発されるようになりました。農家では、農作業の合間に男性は多摩川のいかだ流しや漁業などを営み、女性は機織りをしていたといいます。一方熊川村は段丘上に発達したため、耕地はほとんど畑でしたので、新田開発にも力を入れましたが、多摩川のはんらん(はんらん)に苦しめられました。本格的な新田開発は明治以降になります。



熊川神社本殿(桃山時代、東京都指定有形文化財)



牛浜出水の図(江戸時代、藤雲嶺画)



郷土資料室



出土した深鉢型土器(縄文時代、長沢遺跡)

明治維新後の廃藩置県により蕪山県や神奈川県などに属し、明治22年の町村制施行により福生、熊川の両村で組合役場が設置され、以後50年間両村共同による村づくりが行われます。この間明治26年には東京府の所轄に変わりました。明治27年には青梅・立川間に青梅鉄道が開通し、福生駅が開設されます。大正4年には、電灯がとまり、その6年後に電話が敷かれました。大正14年には福生・五日市間にバスが運行され、同じ年に五日市鉄道も開通。福生は西多摩の玄関口として活況を呈してきました。

明治、大正から昭和へと至る福生は、養蚕を中心とした静かな農村でした。地場産業としては酒造りのほかに製糸工場

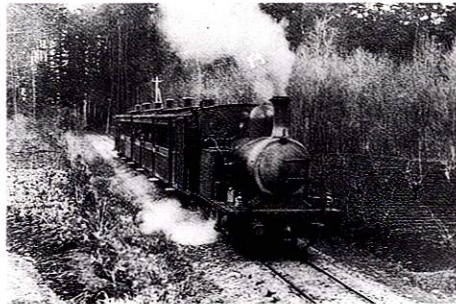
があり、明治20年代から昭和初期にかけて最盛期を迎えました。

昭和14年には多摩飛行場ができました。昭和15年には福生村と熊川村が合併し、福生町が誕生。人口は7,921人でした。同年陸軍航空審査部と整備学校が開設され、軍都として発展していきます。

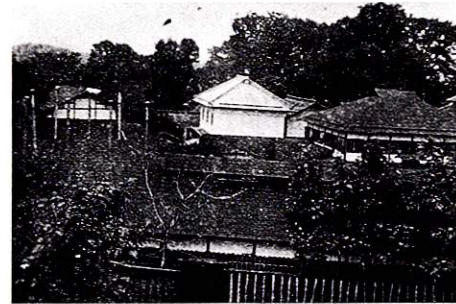
第2次世界大戦後、飛行場は横田基地として米軍の管理に移されました。基地を中心として商店街が急速に発展していきます。町も新しい都市への実現に向け、近代的なまちづくりを急ピッチで進めていきました。昭和37年ころから基地のまちからの脱皮が真剣に考えられ、同年に首都圏整備法によ

る市街地開発区域の指定を受けました。流入人口も多くなり、徐々に住宅都市へと移行していきました。

そして昭和45年7月1日、福生市が誕生しました。人口38,749人でのスタートでした。その後計画的なまちづくりに取り組み、各種施設も着々と整備され、高い水準に達しています。また、市民による新しい文化の創造や国際交流、健康づくりなども盛んに行われるようになりました。平成7年に総合計画修正後期基本計画を策定。「輝く街 福生」を都市像に、A=アクティブ(行動的に)、C=クリエイティブ(創造的に)、C=チャレンジング(挑戦的に)のACCを合言葉に新世紀に向けて大きく飛躍しようとしています。



開通したころの青梅鉄道(明治28年ころ)



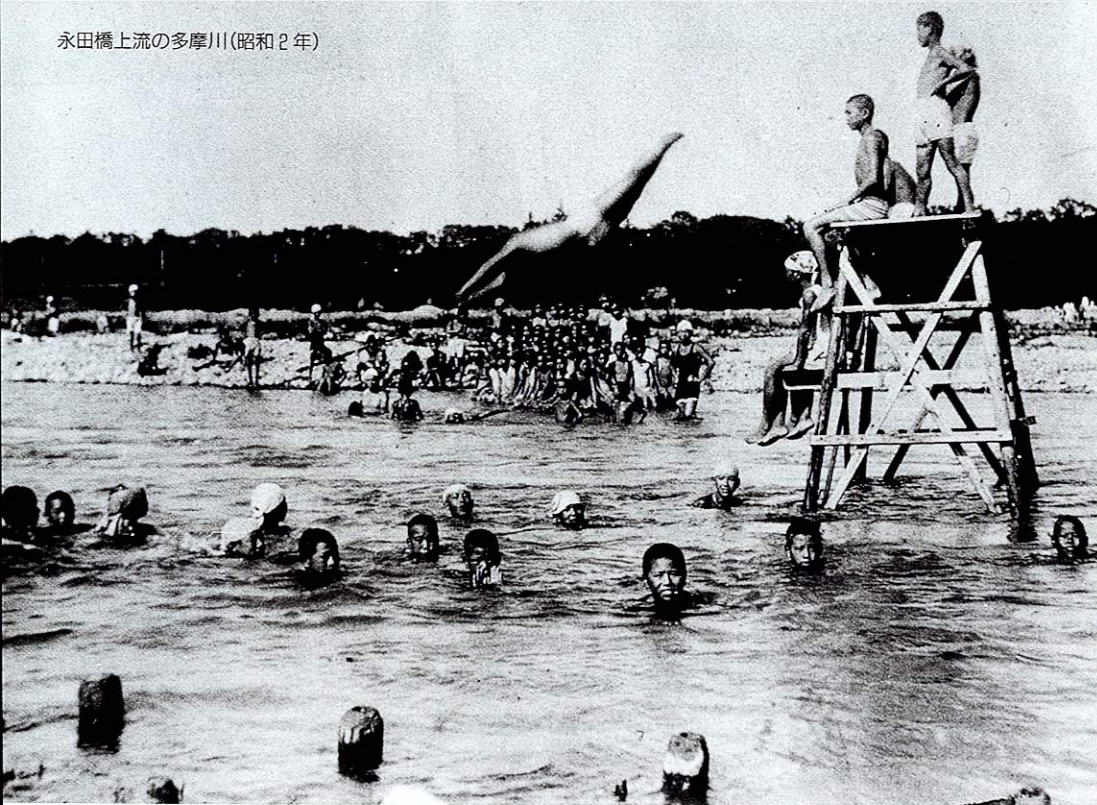
製糸工場

History

It is estimated that people began into the Fussa area about 10,000 years ago. Until the end of the Edo period (1603-1868) the area was under the rule of the military feudal government. During the Meiji period (1868-1912) the district was part of Kanagawa Prefecture, and the villages of Fussa and Kumagawa jointly set about their development. During the Meiji and Taisho (1912-26) periods the area developed as a rural village, centered on the sericulture industry. The village enjoyed its heyday in the early Showa period (1926-89), with sake brewing and a paper manufacturing factory as its local industries.

In 1940 the villages of Fussa and Kumagawa merged into the town of Fussa. After World War II, Yokota Base of the U.S. military was established, and the shopping districts around the base achieved rapid development. Fussa became a city in 1970, with a population of 38,749. Behind its banner of ACC (active, creative, challenging), the city is now marching forward toward to meet the next century with its vision of "Fussa, the brilliant city."

永田橋上流の多摩川(昭和2年)



米軍機が並ぶ横田基地(昭和22年)



福生駅前通り(昭和35年ころ)



兩制施行を祝う児童たち(昭和45年)

